

まちづくりや地域的課題解決における ソーシャル・キャピタルの構成要素について

秋田大学 学生会員 ○金子 侑樹 秋田大学 正 会 員 木村 一裕
秋田大学 正 会 員 日野 智 秋田大学 正 会 員 田口 秀男
秋田大学 正 会 員 鈴木 雄

1. はじめに

ソーシャル・キャピタル（人間関係資本）は「地域社会（コミュニティ）がうまく機能していくような、人間関係や互いの信頼に基づいたネットワークのつながり」と定義されている。川原らはソーシャル・キャピタルの構成要素とその関連性について、「地域課題解決に対する期待感」などの特徴的な要因を取り上げてモデル化を行い、地域課題解決における検討すべき事柄について、要因間の関連性をふまえた検討の仕方を提示している¹⁾。しかしながら、たとえば「住民同士の貸し借り」や「課題認識」など地域課題解決において重要と思われる要因が取り上げられていない。そこで本研究では、これらの要因を取り入れた新たな構造関係を把握するとともに、その結果に基づいた地区ごとの状況および地域的課題解決の方策について検討することを目的としている。

2. 調査対象地区の特徴

ソーシャル・キャピタルの状況および構造化分析のために川原らが行ったアンケート調査の対象地域とその特徴を表1に示す。大住地区は回答者の半数以上を高齢者が占める、などの特徴を持っている。以下から構造化したソーシャル・キャピタル構成要素の構造図とその分析結果を基に、地域別でのより詳細な構造図の作成を行い、地域毎の特徴を見出す。

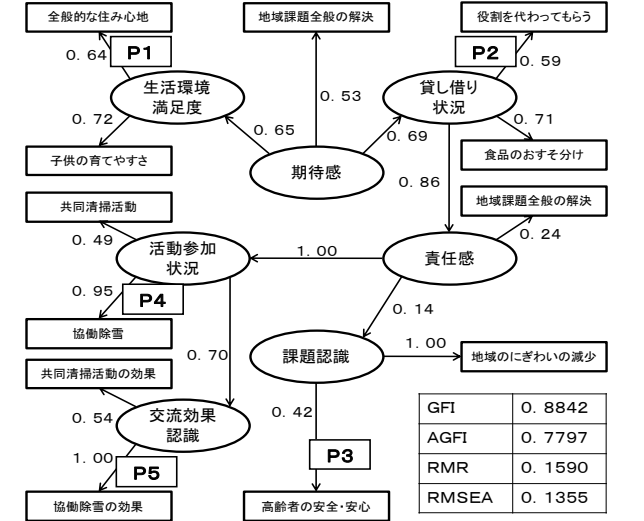
表 1：研究対象地域の特徴

地域	特徴
桜ヶ丘	丘の上に位置する団地。あまり古い土地ではない。高齢化は進行していない。回答者は50代が一番多い。
泉	比較的若い地域で、公園に隣接しているハミングロードでは、清掃活動や、中央に位置する公園では祭りもあり、地域でシンポジウム等もある。回答者は40代が一番多い。
大住	オレンジロードと名づけられた広場を中心に祭り等のイベントもあり、活気づいている。子供の安全を守る安全パトロールの活動もある。回答者は60代、70歳以上が大半を占める。
旭南	高齢化が少々進行している。安全パトロールの活動もある。他地域との交流も図られたりなど、地域活動も盛んであった。大住と同様回答者は60代、70歳以上が占める。

3. ソーシャル・キャピタル構成要素の構造化

ソーシャル・キャピタルの構造について、前述した要因を取り入れて新たなパス図を作成した(図1)。この図より次のようなことがいえる。

- 1) 相手へ何かしらを貸した事が、自分に利益となって返ってくるという期待が高ければ、住民同士の貸し借りも多いと考えられる。(パス係数 0.69)
- 2) 貸し借りが増えることで、借りたことに対しそれを相手へ返そうという責任感もまた高くなると考えられる。(パス係数 0.86)
- 3) 「地域の課題解決力に期待できる」ということは、課題が解消され満足している状態とも考えられる。よって、期待感が高ければ、生活環境満足度も高くなると考えられる。(パス係数 0.65)
- 4) 自分も地域課題の解決へ貢献したいという責任感が高いと、地域への貢献を果たすために活動参加が活発になると考えられる。(パス係数 1.00)
- 5) 地域活動への参加者の交流効果認識は、不参加者よりも、より効果を感じられるため効果があるという認識が強くなると考えられる。(パス係数 0.70)



※ P1～P5は4章にて注目すべきパスと観測変数

図 1：期待感とSC構成要素との構造図

キーワード：人間関係資本、ソーシャル・キャピタル、期待感、責任感

連絡先：〒010-8502 秋田市学園町1-1、TEL(018)-889-2368、FAX(018)-889-2975

4. 地区ごとの状況と課題解決方策の検討

図 1 の構造図は 4 つの地域を合わせた全体のモデルを示したものである。本研究ではこれとは別に地区毎にもモデルを作成した。

各モデルの潜在変数は共通であるが、観測変数は異なった変数での適合度が高くなっている。

表 2 には特徴のある関係（P 1 ～P 5）における観測変数を表している。

以下は地区毎にソーシャル・キャピタルの状況と今後の課題解決について述べる。

表 2：特徴のある観測変数

	P1	P2	P3	P4	P5
全地域	全般的な住み心地	地域活動などで役割を代わってもらう	高齢者の安全・安心に関する課題	協働除雪	協働除雪の交流効果
桜ヶ丘	緑の豊かさ	危険箇所に関する情報の共有	ゴミ出しに関する課題	地域での祭り	地域での祭りの交流効果
泉	緑の豊かさ	地域活動などで役割を代わってもらう	高齢者の安全・安心に関する課題	地域での祭り	地域での祭りの交流効果
大住	地域活動の豊富さ	地域活動などで役割を代わってもらう	生活環境に関する課題	学校や町内での運動会	学校や町内の運動会の交流効果
旭南	交通の便	地域活動などで役割を代わってもらう	生活環境に関する課題	協働除雪	協働除雪の交流効果

1)桜ヶ丘地区

回答者が 50 代に偏っている。これは桜ヶ丘が比較的若い住宅地域であることが関係していると思われる。

期待感と貸し借り状況が高い水準にある反面、課題認識や活動参加が低い値を取っている。

現在 50 代の人が退職を迎え、地域活動に参加する時間をとることができる人口がかなり増えると予想される。今後は地域活動、特に表 2：桜ヶ丘の P 4、P 5にある地域の祭りなどの活動を中心に世代間の交流を図り、地域活動の活性化を図ることが必要であると思われる。

2)泉地区

泉地区は 30 代～50 代の世代が多い地域である。

貸し借り状況、活動参加状況が低い。特に貸し借り状況は、どの世代、質問項目でも、ほぼ最低となっている。これら傾向から地域住民同士のつながりが希薄であると考えられる。

将来、高齢化が進むと予想される泉地域にとっては、表 2: 泉の P 3に見られる「高齢者の安全に関する課題」の解消が特に必要であると言える。一人暮らし、夫婦の高齢世代などの防災など、高齢者の安全の観点からも、地域住民同士のつながりの強化が今後の目標と言える。

3)大住地区

大住地区は高齢者の多い地域である。

地域の特徴としては、生活環境満足度以外の項目が全て高い値をとっていることが挙げられ、現状の 4 地域では最も良好なソーシャル・キャピタルの状態を構築している地域と言える。

地域活動が豊富にあり、大住と他の地域で世代別に活動参加状況を比べてみると、あきらかに大住地区では高齢者の参加傾向が高いことがうかがえる。しかし、この傾向は地域のソーシャル・キャピタルが高齢者に任せきりになっているとも取れる。今後も高いソーシャル・キャピタルを維持していくには、若い世代も積極的に交流できるような地域づくりを意識していくことが必要と考えられる。

4)旭南地区

旭南地区はやや高齢者が多いが、あまり目立った世代の偏りのない地域である。

地域活動への参加は標準ほどだが課題認識が高く、また活動参加状況も低くない、これらから地域課題に対する責任感はそれなりに高い値を出している。しかし、交流効果認識が低いので、地域活動を介した交流がうまく機能していない状況だと考えられる。また生活環境満足度も低い。

表 2：旭南の P 1 も他の項目が低いので相対的に「交通の便」の項目が高くなっていることがパス係数から分かる。

旭南地区は人口もあまり多いわけではなく、世代も偏らない地域であるために、特定の世代だけで活動を行うのが難しい地域である。しかし、それは逆に世代間交流を盛り上げやすい環境であるとも言える。今後は世代間交流を目指して活動を行っていくのが良い。

5. まとめ

本研究での成果として、川原氏の研究で行われた、アンケート調査での調査項目を使つての詳細なソーシャル・キャピタル構成要素の構造図を作成し、地域毎のソーシャル・キャピタル醸成の手掛りを示した。

今後の課題としては、ソーシャル・キャピタル構成要素毎の詳細な構造の把握をしていくことである。

参考文献

1)川原さおり：まちづくりや地域的課題解決における住民の参加と期待感について 平成 21 年度土木学会東北支部技術研究発表会